

平成 26 年度 海外臨床薬学研修報告書

「海外研修を通して学んだこと・考えたこと」

研修期間：平成 26 年 7 月 9 日～7 月 21 日

研修先：サンフォード大学 薬学部

薬学部薬学科 6 年 090973237 園田萌

私は5年時の病院実習で、病棟で糖尿病患者への服薬指導を行った。その時、糖尿病患者の治療に対する積極性を向上させることの難しさを経験した。私はアメリカでは糖尿病を含む生活習慣病患者が非常に多く、日本よりも薬剤師の生活習慣病患者に対する教育、指導が進んでいるということ、これまでに行われた海外臨床研修報告会にて知り、自分で実際にアメリカにおける薬剤師の活躍を見て確認し、今後、どのように生活習慣病患者と接し、指導を行っていくかということについて、自分の実習経験だけではなく、違う観点から考えられるようになりたいと思い、研修に応募した。

施設訪問では、Jefferson County Department of Health と、St.Vincent's Hospital の oncology 部門を見学させていただいた。

Jefferson County Department of Health は地域の保健所としての役割を果たしており、薬剤師とレジデントである薬学生は主に生活習慣病の患者に対して教育、指導を行っている。当施設における研修で最も印象的であったことは当施設で行われている糖尿病教室であった。この施設での糖尿病教室では、患者同士がディスカッションを行うことで、なぜ糖尿病を治療しなくてはならないのかということについて理解を深めようという取り組みがなされている。大人数でディスカッションをすると、発言できずディスカッションに参加できない人が出てくるため、少人数で行っているということであった。医療従事者から患者に一方的に、糖尿病についての知識を伝えるだけではなく、患者が主体的に糖尿病について学ぶということは、患者の糖尿病治療に対する積極性を向上させることに効果的であるということがわかった。

また、患者個々に対して、数回の来院ごとに薬剤師が患者と1対1でコミュニケーションをとることで患者の病識、薬識のチェックを行っていた。

このように生活習慣病の患者に対して、薬剤師は患者に指導を行い、治療に対する積極性を向上させるという役割を担っており、そのために様々な工夫をこらし努力していることがわかった。

St.Vincent's Hospital の oncology 部門では、がん患者と薬剤師の関わり方や、様々な症例について教えていただいた。アメリカと日本では保険制度が異なっており、患者個々の保険、患者本人の意思と照らし合わせて、薬物治療の選択を行っていることが印象的であった。また、「治療が上手くいっていないときにそのことを患者に伝えること」が薬剤師とがん患者のコミュニケーションにおいて非常に難しいことであるということは日本でもアメリカにおいても共通し

ていることであると気づいた。

Samford 大学で受講した授業では、学校教育について解説する授業、コミュニケーションスキルについて解説する授業、疾患とその薬物治療法の授業など様々な授業を受けた。学校教育で印象的であった点としては、週に数時間、学年の違う学生でグループを作り、症例とその薬物治療についてディスカッションを行う授業があるということがあげられる。それぞれが持つ知識に差がある中でディスカッションを行うことにより、様々な観点からその症例について考えられるようになることのであった。

他の医療従事者とのコミュニケーションについての授業では、他の医療従事者に信頼されるためにはどうしたらよいのかということについて学んだ。

アメリカの薬剤師は患者のために薬剤師ができることは何かということについて常に考え、自分たちのできることを他の医療従事者にアピールし、その責任の所在をはっきりさせているという印象を受けた。日本の薬剤師も他の医療従事者から信頼され活躍の場を広げていくために、自分たちに何ができるのかということを考え、アピールするということはしていかなければならないということに気づいた。しかし、文化や習慣の違いや医療制度の違いから、アメリカの薬剤師のまねをすればよいというものではないだろう。

疾患とその薬物治療法の授業では、日本と違う治療法が紹介されたり、患者に対する指導法が日本と異なっていたり、人種や文化によって罹患しやすい疾患が違うなど、日本で授業を受けていただけではわからないことについて学ぶことができたと思う。

今まで日本で受けていた授業や実務実習の経験を踏まえて、アメリカで施設見学や大学の授業を受けるといった臨床研修を行うことで、日本の医療体制とアメリカの医療体制を比較して考えることができた。疾患とその治療法や治療目標についての違いや、日本の医療制度や薬剤師の仕事のよい点、アメリカの医療制度や薬剤師を見習った方がよい点など、日本で勉強しているだけではわからなかったことを学び理解することができた。また同時にアメリカの薬剤師や薬学生の、患者の薬物治療に対する積極性を感じ、私も臨床現場で他職種や患者から信頼され、必要とされる薬剤師になりたいという思いが強くなった。今後、この研修で学び、自分なりに考えたことを実際に臨床現場で活かしていきたい。また、この研修で学んだことや得たことを後輩たちに報告することで、学生時代から主体的に学ぶことの大切さを伝えていきたい。